絵本フォーラム

2018年11月10日　第121号

発行所　NPO法人「絵本で子育て」センター
所在地　〒659-0067　芦屋市茶屋之町2-21-405
TEL 0797-38-7518 FAX 0797-38-7939
http://www.ehonforum.com/　E-mail　info@ehonforum.com
郵便振替口座　00990-8-161667

©NPO法人「絵本で子育て」センター2018

子どもの心に消えない星を

中村　史（絵本講師）

この季節には、クリスマスを祝う風習のある世界中のあちらこちらで物語が生まれます。それは、クリスマス前夜や当日に限らず、人々がクリスマスを待ち始めたときから始まります。世界には、さまざまなクリスマス前の習慣がありますが、キリスト教徒でない私にそのことを教えてくれるのは、いつも本でした。

たくさんのクリスマス絵本のなかでも、とりわけ印象的なのが『クリスマスまであと九日　セシのポサダの日』（エッセルスティン／文、ブルックス／絵、たなべいすず／訳、冨山房）です。

この絵本には、日本ではあまり知られていないメキシコのクリスマスの風習が丁寧に描き出されています。主人公はセシという幼稚園に通う女の子です。家族とお手伝いさんにかわいがられ、おだやかな毎日を過ごしているセシに、その年特別なことがおきます。今年はポサダに出られるというのです。クリスマス前の九日間、毎晩異なる家で行われるポサダは子どもたちの大きな楽しみです。早く寝かされる幼い子は出られません。セシにとってポサダに出られるということは、自分だけのピニャタを持てるということです。それがどんなにわくわくすることか、セシの毎日を丁寧にすくって描き出す作者の絵と言葉が、私たちにも十分に伝えてくれます。

ポサダの晩、素敵きの裏が剥がれ、おばあちゃんの形をつけたピニャタにおでん飾りをつけて動物などの形をつけたピニャタにおでん飾りをつけて動物などの形をつけたピニャタにおでん飾りをつけて動物など